



## 北海道支部新入会員の紹介

メタデータ	言語: ja 出版者: 大学図書館問題研究会 公開日: 2016-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川端, 幸枝, 河野, 由香里, 小林, 泰名, 千葉, 浩之, 兔内, 勇津流 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/3857">http://hdl.handle.net/10258/3857</a>

---

## 特集：大図研、北から南から

---

.....

### 特集：大図研、北から南から

#### 北海道支部 新入会員の紹介

.....

北海道支部長の長井です。

今まで、旧人ばかりで活動もせずほとんど死んだ状態だった北海道支部ですが、全国大会を一つのきっかけに、5名もの新会員が!!! おかげでようやくそろりそろりと動き出しました。マダマダ至らぬところも多いのですが、ほちほちがんばっていこうと思っています。

今回は新会員の皆さんに自己紹介文を書いていただきましたので、ご紹介いたします。

#### 酪農学園大学附属図書館 川端 幸枝

はじめまして。酪農学園大学附属図書館川端幸枝と申します。大図研では北海道支部の新人会員ですが、当大学図書館に勤務して20年余りのベテラン?になります。

以前から大図研のことは気になっており、第46回全国大会(2015年8月 札幌)が地元開催と聞いて参加しました。研究発表、分科会等で初めて知った情報があり、とても刺激になりました。また懇親会、地酒の会では参加者の方々との交流により楽しい時間を過

ごせたことも会員になるきっかけの一つになりました。現在は会員の皆さんとの繋がりから仲間って素晴らしいことを改めて実感しています。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

#### 北海道大学附属図書館 河野 由香里

第46回全国大会(札幌)への参加をきっかけに入会しました、北海道大学附属図書館の河野と申します。これまで大図研のような研究会に所属したことはなく、大会への参加も札幌大会が初めてでした。どのような人が集まっているのだろうと多少不安に思って参加したのですが、分科会、また地酒の会への参加でそんな不安も吹き飛びました。あの会で楽しい時間を過ごし、みなさまのお人柄に触れることがなかったら、入会へのきっかけも生まれなかったかもしれません。平成23年10月の採用から4年が経ち、現在学習支援企画担当という部署で講習会の実施等を担当しております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

#### 北海道大学附属図書館 小林 泰名

北海道大学附属図書館の小林泰名と申します。大図研の会報は以前の上司が回覧してくれるのを眺めていて、重要な情報がいち早く載っているな、これは入会した方がいいかな、と思いつけて3年、全国大会参加を機に、やっ

と入会しました。

関心のあるテーマは、図書館の障害者サービスです。2015年は、3年前から取り組んできた「プリント・ディスアビリティのための図書館資料電子化サービス」について、学外で事例報告をする機会に恵まれた年でした。2016年はいよいよ障害者差別解消法が施行されますので、大学図書館でも障害者サービスが話題になる年になると思います。他大学の方と情報交換ができればと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

#### 室蘭工業大学附属図書館 千葉 浩之

室蘭工大の千葉です。他の4名より一足先に2015年1月に会報第34巻3号への執筆依頼をいただいたのを機に入会を申し出ました。当該記事 (<http://hdl.handle.net/10258/3795>) は海外の図書館事情を書くべきところ、半ば自己紹介になってしまい恐縮です。さて、小さい大学でシステムや電子リソースの管理といった不慣れな業務を担当していますと、全国に仲間がいることは心強いです。一方で当「研究」会員であるということは、関心はありつつも直接の担当ではない情報リテラシー教育や、或いは広い視野で大学図書館について調べたり、考えたり、時にそれらを表に出したりする拠り所になりそうです。引き続きどうぞよろしく願いします。

#### 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

兔内 勇津流

こんにちは。北海道支部に入りました兔内勇津流（とない ゆづる）です。1995年から北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおります。その前は国立国会図書館に7年間おりました。最初大所帯で仕事を始め、その後小さいところに移ったことは、閲覧・レファレンスと目録の両方を切り盛りする上で役に立ちました。図書や雑誌、EJやオンラインDBの相手もしますが、このごろ、地図

や公文書、個人の写真アルバムやノート、図面類などの私文書類を扱うことが多くなり、そうしたものの散逸を防ぎ、いかに伝えて残すかということ、大事な仕事と感じています。小さなデジタル図書館を公開中ですので、お急ぎでないかたは見に来てください。  
<http://srcmaterials-hokudai.jp/>